

事例研究報告

**特別支援学校小学部児童への
他害を減らし、休憩を要求する
ことを教える**

児童の実態

- 自閉症、知的障がいのある小学部 男児
- 不安(初めてのこと)な時や不機嫌な時、目の前の人の胸元や髪の毛をつかみ離さなくなる。
- 不機嫌な時は爪を噛む、声をださなくなる、耳を塞ぐ等
- 文字と写真で示したスケジュールを使用
- 普段通りのスケジュールなら落ち着いて活動できる。

保護者の願い

「他害をなくしてほしい」

他害をなくして、
コミュニケーション能力を育てたい。
どうしたらいいんだろう。



教員の考え

「他害をなくしてほしい。」

「疲れているときの意思
表出をしてほしい。」



アドバイザーからの助言

- 他害がおきにくい状態をできるだけ多く作りましょう。
- パニックになる前にエスケープできる手立てを知らせましょう。



指導目標の見直し

○他害がおきにくい状態をできるだけ作る。

→写真と文字のスケジュールを示す。



→活動量をマグネットで示す。



指導目標の見直し

- パニックになる前にエスケープできる手立てを知らせる。
→ 休憩したいことを伝えるため、休憩コーナーの写真カードを準備。休みたい時に提示するよう指導する。



- パニックへの対応方法の共通理解
〈パニックが起こった後〉

【活動途中の場合】

- ・ パニックを起こすと活動をしなくても良いという誤学習を防ぐため、落ち着いた後に活動を再開するようにする。

【活動終了後】

- ・ 休憩部屋カードを提示し、指差しや部屋に行きたいという自主的な意思表示を行った後、部屋への移動を促す。

指導1: 休憩コーナーに行くことを教える

1 課題の時間に写真カードから好きなものを選択させ、休憩コーナーのカードを指差すとタイマーが鳴るまで休憩コーナーで休めることを指導

2 パニック時には休憩コーナーの写真を見せて休憩を促す。

○ クールダウンの手順

① 休憩コーナーの写真を見せて、本人に選ばせてからコーナーに移動。

② 写真が目に入りにくいときは、いったんその場で椅子に座るようにする。

③ 休憩コーナーに入ってから落ち着いてきたら、タイマーをセットし、鳴ったら出てくるように声をかける。

④ 出てきたら、残っていたやるべきこと(課題、お手伝い、朝の体育など)を最後まで行うよう指導する。

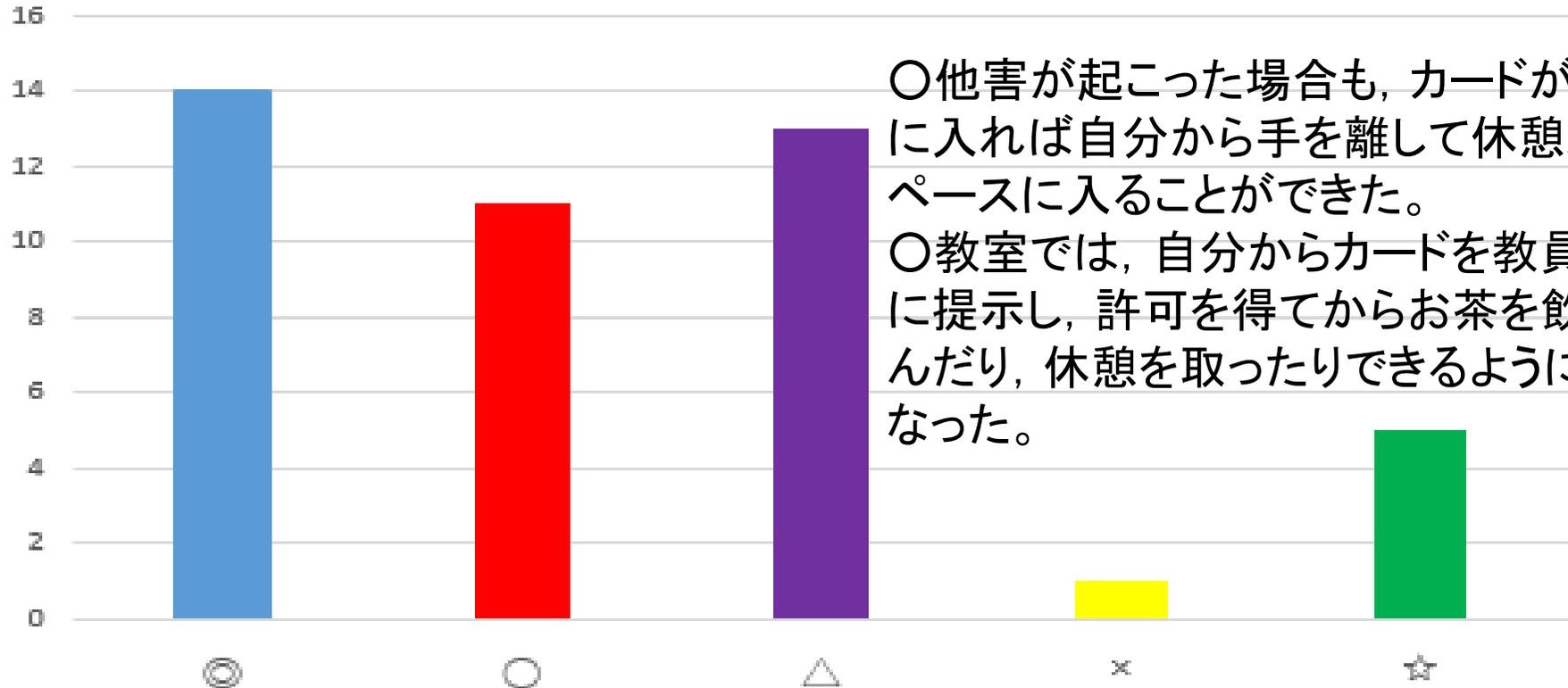
記録方法と記録

- パニックの回数や様子を以下のように記録する。
- ◎ 休憩コーナーの写真カードなしで、短時間に自ら次の活動に移ることができた。
- 写真カードを提示すると、すぐに休憩コーナーに移動することができた。
- △ 写真カードを提示すると、時間はかかったが休憩コーナーに移動ができた。
- × 写真カードを提示したが、移動できなかった。
- ☆ 写真カードがなく時間はかかったが、教員の支援で教室に戻り休憩コーナーに移動することができた。

指導の成果

(回)

パニックの回数とその様子の記録 (期間 9/2 ~ 12/9)



○他害が起こった場合も、カードが目に入れば自分から手を離して休憩スペースに入ることができた。

○教室では、自分からカードを教員に提示し、許可を得てからお茶を飲んだり、休憩を取ったりできるようになった。

パニックを起こしたときの様子

- ◎ 休憩コーナーの写真カードなしで、短時間に自ら次の活動に移ることができた。
- 写真カードを提示すると、すぐに休憩コーナーに移動することができた。
- △ 写真カードを提示すると、時間はかかったが休憩コーナーに移動ができた。
- × 写真カードを提示したが、移動できなかった。
- ☆ 写真カードがなく時間はかかったが、教員の支援で教室に戻り休憩コーナーに移動することができた。

ここが成功のポイント



- 自分の意思を伝える手段や落ち着つけるための環境を整えた。
- 活動に対する不安を軽減できるように、見通しをもつための工夫を行った。